

<h1>名古屋丸の内ロータリークラブ</h1> <h2>Weekly Report</h2> <p>例会場 名古屋クレストンホテル TEL 052-264-8000 例会日時 木曜日 12:30 クラブ会報広報委員長 立石ゆかり HP http://rc.nagoya-seinan.org/</p>	2021-22年度RLテーマ 会長 シェカール・メータ  奉仕しよう みんなの人生を豊かにするため	承認 1995.3.28 会長 亀井 克典 幹事 松尾雄二郎 事務局 名古屋市中区栄3-29-1 名古屋クレストンホテル 1007号 TEL 052-263-1324 FAX 052-263-0730 Email seinan1@fancy.ocn.ne.jp
	<p>亀井克典会長 年度目標 : ポストコロナの時代に向けて、新たな親睦、交流、奉仕の活動をはじめよう</p>	

第1170回 例会 No. 7 令和3年10月21日 (木)	
秋の家族会「歌舞伎鑑賞」 於：御園座	
■ロータリーソング	
■出席報告	会員43名中14名出席
■出席率	36.84% 出席計算人数38名
■ゲスト	会員ご家族ご友人14名

第1169回 例会 No. 6 令和3年10月7日 (木)	
Zoomテスト例会	
■ロータリーソング	「君が代」「奉仕の理想」
■出席報告	会員43名中24名出席
■出席率	55.83% 出席計算人数41名
■ゲスト	米山奨学生 リアンチャロンスック ウィーリンさん

【坂東玉三郎特別公演】

14:00~14:25	開園「口上」
14:25~14:45	1回目幕間
14:45~16:00	「阿古屋」
16:00~16:15	2回目幕間
16:15~16:30	「石橋」

会長挨拶 亀井克典

8月から9月にかけて急激にコロナが増えて、よくわからないけれど終息し始めているというところで、実際に8月の下旬から9月にかけて私自身も診療面で大変な思いをしました。入院できなくて在宅診療、自宅で療養しないといけないという方が急激に増えて、保健センターから要請を受け、私自身も在宅医療をやっているので何件か往診をしたり電話でやり取りしたりしたのですが、40年臨床医をやっていますけれど、こんなこと経験したことないなというほどの例がございました。千種区の方ですが、80代の夫婦でワクチン未接種でした。娘さんが感染して、うちに訪ねてきてご両親に移してしまったと。息子さんがワクチンの接種を終えているので、感染覚悟で同居してお世話をしているのだけど、だんだんご両親の具合が悪くなってきたから見に行きたくしとのことで往診に入ったのですが、結果的に、高齢者でワクチン未接種でハイリスクなので、入院させてくれと保健センターを通じて何度も要請したのにベッドがないということで、1週間そのご夫婦の面倒を見ました。その間に5回救急搬送を要請して、3回は救急車が現場で数時間待機し、やはり運ばせませんと言うことで帰ってしまいました。



仕方ないので、ご自宅に酸素濃縮器という酸素を作る機械を2台設置してご夫婦で酸素を吸ってもらい、ステロイドと言う薬もやむを得ず飲んでもらい、さんざんやりまして、結果的には南区の病院にようやく引き受けてもらいました。しかし、おふたりとも具合が悪くても人工呼吸器を使わないと確約して欲しいと言われ、息子さんにそれでもいいのかと聞きまして、それでもいいから入れて欲しいと言うケースがありました。これがつい1か月前のことです。1カ月たった日赤でもコロナベットが空きました。対応するのが大変難しいウィルス感染症だということ、痛感させられた事例でした。名古屋市の担当者から、データを見せてもらいましたが、ワクチンを打っている高齢者と打っていない高齢者という

と、打っていない人は罹患率が 60%を超えていますけれど、打っている人は 20%くらいです。明らかな効果があると言えます。

急にコロナの感染者が減ったのはなぜかということですが、実は専門家の人に聞いても本当はよくわからないのです。人流が減ったとか、入院できなくて、みんな怖くて注意した為と言っていますけれど、最近の説としましては、ウィルスの生存戦略説というのがあり、ウィルスは感染して相手を重症化させて死んでしまうと自分も死んでしまうので、お互い間合いをはかっている。どれくらいで人との間で落とすところをつけるのか探っているという説があって、採取的にいい塩梅のところで落ち着こうという。

今、一般的に風邪と言われているコロナウィルスも昔はそれなりに狂暴だったけれど今は人類と共存してやっていると説もあります。

そういう考え方でいうと、いったん矛を収めてウィルスも様子を見ていると、またちょっと暴れてみるかと、第6波は必ず来るという専門家の意見もあります。



米山功労者表彰

安江英雄さん

米山特別寄付にご協力いただきました安江英雄さんに米山功労者として表彰いたしました。



米山奨学金贈呈

米山奨学金 10 月分をリアンチャローンズック ウィーリンさんに贈呈いたしました。



9月の祝福

誕生日		結婚記念日
3日	西川さんご夫人	なし
13日	横田佳奈さん	
18日	武山卓史さん	
19日	高橋さんご夫人	
24日	田島陽介さん 眞砂敦夫さん	

10月の祝福

誕生日		結婚記念日
2日	加藤さんご夫人	
8日	川原さんご夫人	
10日		後藤徹さん、水野さん
17日	宮崎さんご夫人	
18日	田島さんご夫人	
22日	矢野さんご夫人	
26日		伊藤さん

ニコBOX

亀井会長 本日初めてのハイブリット例会です。不手際もあると思いますが、ご協力お願いします。

今村さん 久しぶりに皆さんの元気な笑顔を拝見でき嬉しいです。

●10月 は米山月間です。 本日は米山奨学生のウィーリンさんから奨学生生活のご報告をしていただきます。 よろしく願いいたします。 **松尾幹事、大塚、岩田、堀江亮介、磯部、横田、森田、田島、恵利、成田、安江、河原、堀江俊通、山崎、武山、加藤、長谷川、水野、西川、矢野、立石、古川、木村** (敬称略)

●ニコニコ健康感謝 DAY 会長以下 25名

本日合計 103,000円

米山奨学生報告

こんにちは。南山大学のタイから来ましたウィーリンです。実は、いま大学で研究していることをお話ししようと思いましたが、あんまりおもしろくないと思うので、私が日本に留学しようと思った理由と、私が感じた日本人とタイ人の考え方にきて驚いたこと、私が感じた日本人とタイ人の考え方の違いについて お話したいと思います。



皆さんは留学されたことがありますか？ 海外に行って、自分でいろいろチャレンジしたいと思ったことがあるでしょ

うか？ 私のおばあさんは海外旅行が大好きで、いろんな国に行ったことがあります。私は子どものころからおばあさんの海外旅行のお話をたくさん聞いて育ってきました。その影響で、自然と言語を勉強するのが好きになりました。たくさんの国の言葉と話したい、留学したいという夢を持つようになりました。なぜ日本に留学しようと思ったかと言うと、中学生の頃から日本のアニメをたくさん見ていたので、日本のアニメを日本語でみたいと思ったからです。日本に留学したことがある知り合いが日本は治安が良く暮らしやすいし、周りの日本人みんなが優しくて真面目だと聞きました。

日本にはたくさんの国からの人々が集まっているので、日本に来ればたくさんの人に会えるし、日本語だけではなく英語も使えると聞きました。ということで、タイで勉強するよりも日本に行きたいと思うようになった。

私は日本に来て、少し寂しいが、周りの人みんなが優しくしてくれるので一度もガッカリしたことがないくらい幸せです。

日本に来て驚いたことの TOP3 を話したいと思います。第3位、こちらは驚いたことと言うよりも、好きなことになってしまうかもしれませんが、日本は治安がとても良いというところ。こちらについては、夜道を女性一人で歩いてもほとんどの場所では問題ないですし、落とした財布や携帯などが見つかることもあるというのが、タイ人の私には信じられないことです。私がタイにいるときに、タイでは夜道を女性一人で歩くのはとても危険なので、私がタイにいるときに、午後6時までに家に帰よう母から言われています。しかし、日本にはとても不思議なところもあります。ビニール傘を盗られたことがありますか？ 私は大学で、目の前で取られたことがあります。財布は戻ってくるのに傘は盗られるというのは日本ならではのことでと思います。あの…いい意味で。

続いて第2位。日本の街がキレイで、ゴミが全然落ちていないということです。タイや、私は韓国や中国に行ったことがあるんですけど、タイ同様屋台が多いので、道にゴミがたくさん落ちています。それに対して、日本ではゴミ箱が置かれていないのに、道にゴミが落ちていません。おそらく日本では、清掃活動を幼い頃からみんなで手を取り合って行うことで、自分たちで使う場所は自分たちで責任を持って綺麗にするという概念が知らず知らず植えつけられているのではないかと思います。例えば、お花見をした後みんなで自分のゴミを持って帰ったり、共有スペースを綺麗にし続けるという慣習が身につけているというのに驚いて、感心しました。最後に、第1位は食べ歩きはダメと言うことです。タイというのは私にとって、タイ人は食べることはとても大事ですので、食べ歩きがだめっていうのが私にとってすごくショックです。私は大学一回注意されたことがあります。実際はだめとはいわけてではありませんが、歩きながら食べることは行儀が悪いとされているということ、

日本人の友たちに聞きました。タイでは、歩きながらアイスを食べたり、屋台で買ったチキンを食べたりするのは普通のことです。タイはとっても暑いので、だいたい 38

度、35度くらいありますので、道とか駅前、デパートで歩きながらアイスを食べたり、アイスコーヒーを飲んだりする人がほとんどです。もしみなさんがタイに来たら、食べ歩きを目にすることがあると思いますが、日本の街角では、立って食べる、歩きながら食べている人はあまり見かけません。お祭りや観光地とかそういう場所は話は別ですけど、普通の道端とかはあまりいないと感じています。このことについて、いくつか理由を考えます。その一つとしては、歩きながら食べることで道路を汚してしまったり、人の服を汚してしまったり “他人に迷惑をかける可能性がある” のではないかと思います。このようなことは小さなことのように見えますが、実際には周りの人への配慮にも繋がります。日本人の礼儀正しさについて、いつも驚いて感心しました。ほかにも、日本人はよく挨拶をします。例えば、毎日「おはようございます」「ありがとうございます」という言葉をよく聞きます。「混んでいる場合は必ず列を作って静かに待つ」「電車の中では静かにする」そういうことが日本では当たり前のことですので、タイ人もこういう風になって欲しいなと思います。

最後に、私が感じた日本人とタイ人の考え方の違いについてお話ししたいと思います。

一つ目は、時間の感覚の違いです。例えば、集合時間を朝10時としたら、日本の場合はだいたい10分から15分前に就くのにに対して、タイ人は30分から1時間遅れる人が少なくはないです。私がタイにいるときに、友達に朝10時に会おうねと約束したら、実際には10時半に会うということになります。日本人は終業はルーズだが始業厳しいと言われていますが、タイは終業でも始業でもルーズです。もう一つは、コミュニケーションの難しさです。日本人は「本音」と「建前」の使い分けがあると、日本に来て知りました。タイ人は「Yes」「No」「好き」「好きじゃない」と自分の考えとか、自分の意見をはっきりいうことが多いです。日本に来て「こういえばいいかなあ」「はっきり言っても大丈夫かなあ」と混乱していました。私は一度授業で初めて会った日本人の友たちとお買い物に行ったんですけど、「りんさん、このブラウスかわいい？」と私に聞きました。私が実際に思ったことは、どう答えたらいいかなとすごく混乱してしまって、「似合わないから、あっちのブラウスはどうか？」と言ってしまいました。その結果は予想通り雰囲気は壊れてしまいました。そのおかげで、何かを言おうとする前に、相手をいかに傷つけずに気持ちを伝えるかを考えることはとても大切と思うようになりました。

今後の例会予定

10月15日(木)休会(定款第7条第1節-d-3)

緊急事態宣言発令のため休会と致しました。

10月28日(木)第1171回例会 委員会卓話

「クラブ戦略委員会」委員長 藤田守彦さん

11月4日(木)休会(定款第7条第1節-d-1)

11月11日(木)第1172回例会 財団月間卓話

地区グローバル奨学生・平和フェロー副委員長 田中如以さん

第3回 議事会議事録

2021年9月2日(木) 12:00~

出席者 (敬称略)

亀井、岩田、武山、成田、今村、堀江亮介、森田、田島、磯部、松尾、加藤

議事録

- 1・緊急事態宣言下における例会予定の件
- 2・佐賀・長崎豪雨災害義援金
- 3・10月21日「秋の家族会」会費の件
- 4・その他

第4回 議事会議事録

2021年10月7日(木) 12:00~

出席者 (敬称略)

亀井、岩田、武山、成田、今村、長谷川、堀江亮介、森田、田島、磯部、松尾、加藤

議事録

- 1・入会承認の件 小野素尊さん
- 2・地区議案決議 クラブ投票の件
- 3・その他 会長エレクト推進委員会日程

ハイライトよねやま259号より抜粋

大学学長に就任した米山学友

現在、京都精華大学の学長を務める米山学友のウスビ・サコさん(マリ/1992-94/京都北RC、現在同クラブ会員)。高校卒業後、中国の北京語言大学、南京東南大学を経て来日した経歴の持ち主で、専門は空間人類学。2001年に同大教員として着任し、2018年4月より学長に就任しました。

最近、著書や新聞寄稿、ニュース番組のコメンテーターとして、日本社会や若者へ多様性や共生の在り方を問うメッセージを発信しています。

今年6月24日の日経新聞「交遊抄」で、ウスビ・サコさんの寄稿が掲載されました。タイトルは「低姿勢な父」。父とは、ウスビ・サコさんの奨学生時代のカウンセラー、小野内会員のことです。

「お金をもらいにクラブに行くと“世話人”なる男性が現れた。家まで送ると言い、車の後部座席のドアを開けてくれる。この奨学金は運転手までつくのかと感心した」。後に日本人女性と結婚する際も、小野内会員が実父かのように口添えしてくれたエピソードを経て、「マリでは企業の重役は車の後部座席のドアを開けたりはしない。でも、地元の名士である小野内さんは院生の私にそうしてくれた」「私も今は学長という職にあるが、誰に対しても低姿勢でフラットに接したい」という文で結ばれています。

サコさんのように、多くの米山奨学生はカウンセラーやロータリアンの振る舞いから学びます。コロナ禍が落ち着き、この事業の真髄である交流が各地で再開されるこ

とを願わずにはられません。

財団NEWS10月号より抜粋

【コロナに負けない：立ち上がる世界各地のクラブ】

1年半前から続いている新型コロナウイルスの世界的脅威に伴い、ロータリーもしばらくの間、活動の休止を余儀なくされました。2020年3月には、『Rotary』誌も5月号の印刷をいったん中止し、2019-20年度RI会長マーク・マローニー氏の新しいメッセージを挿入することになりました。「3月初旬には、世界各地で新型コロナウイルスのニュースが日に日に大きく取り上げられるようになり」とマローニー氏。「ロータリーはすべての地区とクラブに対し、追って通知があるまでは対面式の会合を中止し、オンライン形式に変更するよう要請を出しました」。その後、ロータリーの活動を再開させたマローニー氏は、「世界が急激な変化を遂げる中で、ロータリーもまた大きく変わらなければなりません。私たちの順応性と強さなら、この局面を乗り越えることができるはず」とメッセージに綴りました。

【遠隔地にコロナワクチンを届ける】

ガイアナのデメララ・ロータリークラブの会員は、何十年ものあいだ疾病と闘ってきました。そして今、コロナワクチンを届けることで南米諸国のコミュニティを支援しています。遠隔地にある先住民コミュニティは、ワクチンがなければウイルスに無防備となります。クラブ会員は、ガイアナの熱帯雨林奥深くに分け入る重要な医療遠征を、30年近くにわたり実施してきました。そのため会員は村々の特定のニーズ、地域独自の知恵や風習などを良く把握しており、このクラブは近隣のクラブから「ブッシュクラブ」(茂みのクラブ)と呼ばれています。

【未来を変える識字】

国際ロータリーの会長に就任するずっと前から、シェカール・メータ氏は意欲的な目標を定めることで知られていました。難題にも果敢に取り組み、成果を上げるという評判をもつメータ氏に、カルヤン・パネルジー元RI会長は2014年、インドの識字率100%を目指す取り組みを一任しました。これはインド政府も多くのNGOも果たせていない目標です。

「一つの国全体の識字率を100%にすることは決して容易ではない」と気づいたメータ氏は、この目標を「7歳以上の国民の識字率を95%以上にすること」と定義しました(インド政府の推計では、7歳以上のインド国民の現在の識字率は78%)。「それでも私は、ガンジーの『目標を見つけよ、手段は後からついてくる』という言葉で固く信じています」とメータ氏は言います。

